

雇用均等・児童家庭局

Equal Employment,
Children and Families Bureau男女ともに活躍し、安心して
子育てができる社会へ

Our Mission

日本の総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は4人に1人、出生数も100万人を下回りました。日本は、少子高齢化が進んでおり、人口減少社会に突入しています。女性の活躍や仕事と家庭の両立の観点から働き方改革を進めるとともに、保育園等の子育て支援の環境の整備を総合的に進め、「希望出生率1.8」を目指します。

部局の所掌分野

子ども・子育て支援

誰もが安心して子育てできる環境づくりのため、保育園や放課後児童クラブ等を整備するとともに、施設内での事故防止の対策や、保育人材の確保に取り組んでいます。

虐待を受けた子ども等の保護

児童虐待の発生予防から、早期発見・早期対応、子どもの保護・自立支援、保護者支援の体制を構築するとともに、養子縁組の促進、里親への委託(▶KEY WORD)や児童養護施設への入所等により、虐待や、両親がいないなど困難な状況にある子どもの養育を支援しています。



オレンジリボンには子ども虐待を防止するというメッセージが込められています。

女性活躍の推進、女性が働きやすい
職場環境づくり

企業における女性の活躍推進に向けた取組みを促進するほか、職場におけるセクハラなどの嫌がらせへの対策等を通じて、女性が輝ける社会づくりに取り組んでいます。

仕事と家庭の両立の支援、
多様な働き方に応じた環境整備

男女ともに、仕事と育児・介護を両立しやすい環境を整備するため、育児休業や介護休業の取得促進のための取組を行うとともに、近年増加している、雇用によらない在宅ワークのルールづくり等を行っています。

お母さんと赤ちゃんの
健康づくりの推進

妊産婦や乳幼児に対する健診の推進や、妊娠期・子育て期の家庭がかかえる様々な課題への相談支援体制の構築等により、お母さんと赤ちゃんが心身ともに健康で生活できる社会を目指しています。



【マタニティマーク】

政策紹介 1

待機児童の解消に向けて

平成27年4月から、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進める「子ども・子育て支援新制度」が始まりました。

新制度のもと、子どもが生まれたのに保育園に預けられない、仕事を続けられないということがないよう、

- 保育の質を確保しつつ、保育園等の保育の場と、そこで働く保育士の方々の確保に取り組むとともに、
- 「保育コンシェルジュ」等の利用者支援をきめ細かく展開するなど、

保育を希望する方の子どもが保育園等に入園し、保育を希望する方が子育てしながら、安心して働ける社会を目指しています。



政策紹介 2

日本の未来を守るための子どもの貧困対策

少子高齢化等の課題が山積する日本。その将来を担う子どもの貧困が問題となっています。子どもの現在の幸せを守ることが何より重要ですが、それは子どもたちが将来十分な力を発揮して他の誰かの幸せを守ることにつながります。

仕事と子育てを保護者一人で担うひとり親家庭の支

援は、子どもの貧困対策において重要なテーマです。平成27年に策定した「すくすくサポート・プロジェクト」に基づき、ひとり親家庭への総合的な支援を行っています。子どもの学習支援等、経済的な問題に限らない様々な「貧困」問題に取り組んでいます。また、児童養護施設で生活する子どもが大学進学後も施設で引き続き生活できるよう対象年齢の拡大にも取り組んでいます。



KEY WORD

養子縁組・里親

保護者のいない子どもや、虐待等の事情で保護者が育てるのは適当でない子どもは、全国に約4万6千人いますが、その多くは、児童養護施設等で集団生活をしています。

しかし、本来はできる限り温かい家庭的な環境で育てて欲しいと考えており、これまで日本ではあまり活用されていなかった養子縁組の促進、里親を増やすなどの取組を行っています。



政策紹介 3

女性の活躍の推進

男女ともに仕事と子育ての両立がしやすく、安心して働ける環境の整備を目指し、育児休業や短時間勤務制度等の利用促進や妊娠・出産、育児・介護休業等に関

するハラスメントやセクシュアルハラスメントの防止対策を推進しています。

また、企業における子育て支援や女性活躍の取組を一層加速化するため、次世代育成支援法・女性活躍推進法に基づく各企業の取組(行動計画の策定等)支援や認定制度(くるみん・えるぼし)の普及促進を通じ働きやすい職場の環境整備を進めています。



KEY WORD

ジョカツ部による若手主導の大改革

昨年末、塩崎厚生労働大臣はじめ多くの厚生労働省幹部がイクボスを宣言。女性とイクメンの活躍推進策を検討する若手の大臣特命チーム「ジョカツ部」が企画しました。

ジョカツ部は、女性が活躍するためには、①働きやすい職場づくり(働き方改革)と、②男性の育児参加推進(イクメンの普及)が必要と考えており、部下のワークライフバランスに配慮する「イクボス」を厚労省から他省庁、自治体、民間企業をはじめ社会全体に広げています。「まず厚生労働省から変える、社会全体を変えていく」をキャッチコピーに若手の自由な発想で新しい取組を次々に仕掛けています。

